

施策マネジメントシート(平成25年度の振り返り、総括)

作成日 平成 26 年 6 月 23 日

基本目標	I	誰もが安心して安全でゆとりを感じるまち	主管課	名称	農政課
				課長	原澤 志利
施策	13	獣害対策の推進	関係課		

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
	①町民	①鳥獣による被害にあわない。		基本事業	1 鳥獣が出没しにくい環境整備
		2 農林産物被害の軽減	農家		鳥獣による農林産物の被害を軽減できる。
		3 人的被害対策の推進	町民		鳥獣による人身被害にあわない。
		4			
		5			

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	A	鳥獣による農林産物被害金額	千円	実績値	10,888	7,171	7,074			
目標値					10,500	10,000	9,500	9,000	8,500	8,000
B	鳥獣による農林産物被害面積	ha	実績値	13.7	9.8	9.1				
			目標値		13.5	13.0	12.5	12.0	11.5	11.0
C	獣による人的被害者数	件	実績値	1	1	0				
			目標値		0	0	0	0	0	0
D	獣の目撃件数	件	実績値	94	116	117				
			目標値		120	110	100	90	80	70
E			実績値							
			目標値							
F			実績値							
			目標値							

指標設定の考え方と実績値の把握方法

A) 被害金額が減少すれば対策の効果が現れていると言えるため成果指標とした。また、数値は県で公表しているため他団体との比較も可能となる。
 B) 被害面積が減少すれば対策の効果が現れていると言えるため成果指標とした。また、数値は県で公表しているため他団体との比較も可能となる。
 C) 獣による事故がなければ安全が確保されていると言えるため成果指標とした。
 D) 獣の目撃情報の通報が少なくなれば対策の効果が現れていると言えるため成果指標とした。

目標値設定の考え方

A、B) 平成23年度から獣害対策センターを設置し、電柵の設置や緩衝帯の整備、パトロールや個体数管理などに取り組んでおり、現在の体制を継続することにより、被害額・被害面積の増加を抑制する。また、行政が中心となって行っている獣害対策について、今後、地域住民を巻き込んだ対策を構築することで、コンスタントに被害額を減少させ、平成29年度8,000千円以下に抑制する。【(農林産物被害金額) 沼田市:24,388千円(H23)、片品村:4,978千円(H23)、川場村:1,800千円(H23)、昭和村:9,093千円(H23)】
 C) 平成23年度、平成24年度それぞれ人身事故が発生しているが、町民の安全を確保するため事故発生件数0を目指す。
 D) 平成23年度に大幅に増加したが、新たな地区での目撃情報はほとんどなく、120件程度で推移すると考える。行政と地域が一体となった対策を講ずることで、通報件数の減少が図れると考えられることから、平成29年度通報件数を70件までに抑制する。

施策のための役割・目標達成	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①未収穫農産物や野菜くず等を農地に放棄しない。 ②出没した鳥獣の追い払いを行う。 ③農地の荒廃化を防ぎ、集落に隣接する林野の刈り払いを行うなど、獣が出没しにくい環境を整備する。	①獣が出没しにくい環境を整備するための支援を行う。 ②鳥獣の個体数調整を行う。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①鳥獣保護法の改正案が示され「管理:生息数や生息地を適正な水準まで減少させる」が加えられ以前より駆除等に取り組みやすくなる模様。 ②県では獣害対策を重点施策の一つとして位置付けており対策強化のため組織の充実を図るとともに適正管理計画業務を環境森林部から農政部に移管し鳥獣被害対策センターにおいて一体的な対策を推進するとしているため、市町村においても情報共有が図れ「捕る」「守る」「知る」対策の強化・向上が期待される。 ③イノシシやクマ、サル等の市街地への出没が確認されており、獣害対策は中山間地域の課題では済まなくなっている。 ④近隣市町村の追い払い強化により、町内に逃げ込んでくる可能性がある。 ⑤平成26年4月より緑の県民税(森林環境税)が導入され、市町村提案事業の公募が開始された。	①獣害対策を行わなくとも農業が営めるような環境を取り戻してほしいとの期待がある。 ②獣害パトロールによる成果が見えにくい。目に見えるような成果指標(例:出没状況のお知らせなど)が必要ではないか。 ③捕獲した個体の焼却処理施設の設置

施策	13	獣害対策の推進	主管課	名称	農政課
				課長	原澤 志利

施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	実績比較		背景・要因																					
	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	① 進入防止柵(電牧柵)の設置について獣害センター設置前は年間10~20kmの事業量であったが、センターが設置された平成23年度に50.8km、平成24年度20km、平成25年度8kmの整備促進により平成25年度末で累計140km弱の整備を行ったため、被害額・面積が低減されたと考えられる。 ② 地域での追い払い活動を推進するため、町から追い払い用煙火を支給している。平成23年度は765個、平成24年度は1,057個、平成25年度は3,523個(うち獣害センター1,755個)が使用され地域ぐるみの取り組みが行われるようになったと考えられる。 ③ 人的被害について、平成23年度の1件は人家周辺へ出没したイノシシが除雪作業中の町民に被害を与えたケース、平成24年度の1件は山菜採取中、クマに襲われたケースであるため状況は異なる。平成25年度は事故0件となった。パトロールや講習会開催の効果と考える。 ④ 目撃情報について、平成23年度は94件、平成24年度は116件、平成25年度117件とほぼ同数で推移した。																					
		② 他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	① 管内の市町村で基金の創設や獣害センターを設けて対策に当たっている市町村は存在しないため、先進的な取り組みと評価する。 ② 平成24年度における管内のデータ <table border="1"> <thead> <tr> <th>市町村名</th> <th>被害面積</th> <th>被害金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>沼田市</td> <td>141.93ha</td> <td>20,646千円</td> </tr> <tr> <td>片品村</td> <td>1.38ha</td> <td>5,410千円</td> </tr> <tr> <td>川場村</td> <td>0.65ha</td> <td>114千円</td> </tr> <tr> <td>昭和村</td> <td>5.66ha</td> <td>7,183千円</td> </tr> <tr> <td>みなかみ町</td> <td>9.82ha</td> <td>7,171千円</td> </tr> </tbody> </table>			市町村名	被害面積	被害金額	沼田市	141.93ha	20,646千円	片品村	1.38ha	5,410千円	川場村	0.65ha	114千円	昭和村	5.66ha	7,183千円	みなかみ町	9.82ha	7,171千円
			市町村名	被害面積	被害金額																			
沼田市	141.93ha		20,646千円																					
片品村	1.38ha	5,410千円																						
川場村	0.65ha	114千円																						
昭和村	5.66ha	7,183千円																						
みなかみ町	9.82ha	7,171千円																						
③ 目標の達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	① 被害金額・面積ともに平成29年度目標値を達成したため大きく上回ったと評価する。 ② 平成24年度の人的被害1件は山菜採取中の事故であるため、行政による被害防止対策には限界があるが、危険性についての広報や周知が十分でなかった可能性がある。平成25年度の事故は0件であり講習会やパトロール等の効果が発揮されたと考える。 ③ 目撃情報の増加要因としてニホンザルの出没が考えられる。適正管理計画の速やかな実行と、他地区における計画策定を進める必要がある。																						
	<獣が出没しにくい環境整備> ① 緩衝帯(森林整備)4地区・15ha及び林縁部刈り払い支援(ボランティア支援)10kmを実施。 ② 追い払い用煙火の講習会を、地域住民自らが追い払い活動に取り組めるよう講習会を水上、月夜野の2会場で実施した(受講者153名) ③ 緊急雇用事業等を活用し3班体制で町内パトロールを実施した。																							
	<農林産物被害の軽減> ① 4地区・8kmの進入防止柵(電牧柵)の設置を行った。 ② 平成24年10月より鳥獣被害対策実施隊を組織しニホンザル駆除活動を実施した。平成25年度に捕獲許可を受けて駆除を行った有害鳥獣数は、ツキノワグマ5頭、ニホンザル115頭、イノシシ181頭、カラス22羽、ハクビシン120頭、ニホンジカ73頭の計516頭となった。平成24年度の捕獲総数は782頭で200頭を超える減少となった。要因として木の実等が豊作であったこと、獣肉の自粛措置が継続されていることなどが考えられる。平成23年度捕獲総数は546頭であった。 ③ 湯宿地区他4群のニホンザル適正管理計画が県より承認を得られたことから、平成25年度以降積極的な個体数管理に取り組むとともに市街地へ出没している湯原地区において計画策定を進める。町全域の計画を策定するには、群れや個体数など対象が多くなりデータ収集にも多大な時間・労力を要することから地区ごとに計画した。																							
	<人的被害対策の推進> ① 目撃情報を受け、防災無線による周知や教育委員会より小中学校へ情報提供を行うとともに看板等の設置を行った。 ② 平成24年度狩猟期に死亡事故が発生したため、平成25年10月に町内猟友会を対象に安全講習会を開催し(76名/114名)啓発に努めた。 ③ 早朝に目撃情報が多い通学路を職員がパトロールを行った。																							
	成果実績に対する取り組みの総括																							

今後の課題と取り組み方針(案)	基本事業名		今後の課題		平成27年度の取り組み方針(案)		
	1	鳥獣が出没しにくい環境整備	森林整備が実施された後の管理がなされないため、効果が十分発揮されない地区も存在することから地域での刈り払い活動が継続される方策を検討する必要がある。 パトロールによる成果が見えにくいとの意見があるため、限られた予算をより有効に活用するための方法、体制を検討する必要がある。		① 平成25年度に創設された「森林・山村多面的機能発揮対策」の事業計画を策定し、活動地区への支援を行う。 ② 「緑の県民税」を活用した市町村提案事業について地域住民が参加しやすい制度設計を検討し行政主導から地域主導の体制整備の構築にあたる。 ③ パトロールによる出没情報を防災無線等で周知し、町民(農業従事者)が対策を講じやすいよう情報提供を行う。		
			2	農林産物被害の軽減	進入防止柵の整備を推進しているが、補助対象となる区域設定が難しい農地が残ってしまったため、町単独事業としての支援が求められている。 地域活動による追い払い体制の構築。 実施隊(猟友会)の高齢化・人員の減少。		① 町農林業振興事業補助金交付要綱に基づき進入防止柵設置者(生産者)への支援を行う。 ② 追い払い用煙火の講習会開催・支給支援を継続するとともに、地域活動として追い払いが取り組めるよう、実技講習会等の開催を計画する。
3					人的被害対策の推進	人的被害は、狩猟期よりも春から秋にかけての山菜採取や散策等において発生するケースが多いため、町外者への周知が課題となっている。 ニホンザルの市街地への出没が見られるため、対策を講じなければならないが、取り組める対策が限られてしまうため、どの程度効果が発揮されるのか未未知数である。 ニホンザルの通学路での目撃は続いており地域や学校等と連携を図り対策を講ずる必要がある。	

13 獣害対策の推進

13-01-000001 有害鳥獣情報収集・管理事業				担当組織 農政課 獣害対策センターグループ			事業費		237,983円								
予算科目 会計 一般会計				款 6農林水産業費		項 2林業費		目 2林業振興費									
事業概要	対象	猿追跡調査員麻薬取扱者			意図	猿追跡調査の効率向上麻薬取扱者の育成			手段	調査員宿舍の確保、光熱水費の支払い麻薬取扱者の申請及び更新、							
		猿追跡調査員	平成24年度	平成25年度		単位	調査区域数	平成24年度		平成25年度	単位	光熱水費の支払い	平成24年度	平成25年度	単位		
			6	6	人		3	3	箇所		30	30	回				
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等		○ 目的妥当性		× 有効性		○ 効率性		○ 公平性		コスト						
	<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し		<input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下 ○ × ×						
全体総括		個体数調整計画策定に結びつく調査数値を得ることができた。【統合H26から】鳥獣害防止対策農業者支援事業の一部				今後の改革改善案				鳥獣害対策事業の一環として統合すべき				課題とその解決策		農業者支援・有害鳥獣情報収集・管理事業	

13-01-000002 【基金】有害鳥獣対策基金				担当組織 農政課			事業費		29,213円								
予算科目 会計				款		項		目									
事業概要	対象	評価対象外			意図	評価対象外			手段	評価対象外							
			平成24年度	平成25年度		単位		平成24年度		平成25年度	単位		平成24年度	平成25年度	単位		
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等		- 目的妥当性		- 有効性		- 効率性		- 公平性		コスト						
	<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し		<input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下 × × ×						
全体総括		評価対象外				今後の改革改善案				評価対象外				課題とその解決策		評価対象外	

13-02-000001 有害鳥獣捕獲・駆除事業				担当組織 農政課 獣害対策センターグループ			事業費		29,166,233円								
予算科目 会計 一般会計				款 6農林水産業費		項 2林業費		目 2林業振興費									
事業概要	対象	有害鳥獣			意図	有害鳥獣の個体数を縮減させる。有害鳥獣の農地への侵入を防止する。			手段	臨時職員によるパトロールの実施実施隊員による二ホンザル駆除・追い払い有害鳥獣捕獲奨励金の支払追い払い用動物駆逐煙火の購入							
		有害鳥獣目撃情報件数	平成24年度	平成25年度		単位	捕獲数	平成24年度		平成25年度	単位	パトロール日数	平成24年度	平成25年度	単位		
			116	117	件		782	516	頭		356	336	日				
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等		○ 目的妥当性		× 有効性		× 効率性		○ 公平性		コスト						
	<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し		<input checked="" type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input checked="" type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input checked="" type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下 ○ × ×						
全体総括		捕獲数の増加・農林産物被害の減少傾向を示しており、事業の成果が発揮されたと思われる。【分割H26から】鳥獣被害対策実施隊運営事業/鳥獣被害防止/パトロール事業/有害鳥獣捕獲奨励金交付事業/有害鳥獣追い払い事業/猟友会活動支援事業				今後の改革改善案				銃器を携行して活動できる実施隊活動を充実させることにより奨励金の縮減が可能となる。・農業従事者もしくは地域ぐるみでの追い払い活動を充実させることによりパトロール業務の縮減が可能となる。				課題とその解決策		・実施隊員は実施隊活動を生業としていないため、活動を充実させることは個人の負担が増加する。・住民の理解を得ることはもちろんのこと、行政による支援を充実させる必要がある。	

13 獣害対策の推進

13-02-000002				担当組織 農政課 獣害対策センターグループ				事業費		4,504,818円			
有害鳥獣侵入防止対策事業				予算科目 会計 一般会計		款 6農林水産業費		項 2林業費		目 2林業振興費			
事業概要	対象	野生鳥獣。			意図	野生鳥獣の出没抑制する。			手段	森林整備。林縁部刈り払いボランティア支援。			
		森林整備	平成24年度	平成25年度		単位	森林整備	平成24年度		平成25年度	単位	森林整備	平成24年度
			20	15	ha		20	15	ha		20	15	ha
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等		○ 目的妥当性		○ 有効性		○ 効率性		○ 公平性		コスト		
	<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し		<input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下		
	全体総括	人家や生活道沿線の森林や林縁部の環境を整備することにより、野生鳥獣の出没抑制が図られる。			今後の改革改善案	事業要望地区地権者情報調査等の改善。			課題とその解決策	森林獣害対策後における、地域住民による整備箇所の管理整備の継続。			

13-02-000003				担当組織 農政課 獣害対策センターグループ				事業費		6,486,600円			
鳥獣害防止対策農業者支援事業				予算科目 会計 一般会計		款 6農林水産業費		項 2林業費		目 2林業振興費			
事業概要	対象	被害地域農業者			意図	イノシシ及びハクビシンの捕獲			手段	イノシシ用クワナ購入ハクビシン檻購入			
		被害地域	平成24年度	平成25年度		単位	イノシシ捕獲	平成24年度		平成25年度	単位	ハクビシン檻	平成24年度
			80	80	箇所		351	181			154	0	基
評価結果と今後の方向性	廃止・休止等		○ 目的妥当性		○ 有効性		○ 効率性		○ 公平性		コスト		
	<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 規模縮減 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 対象の見直し <input type="checkbox"/> 意図の見直し		<input type="checkbox"/> 活動量増大→成果向上 <input type="checkbox"/> やり方改善→成果向上 <input type="checkbox"/> 成果維持→活動量削減 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携		<input type="checkbox"/> やり方改善→事業費削減 <input type="checkbox"/> やり方改善→時間削減 <input type="checkbox"/> 民間委託・分担変更		<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化		削減 維持 増加 成果 向上 維持 低下		
	全体総括	捕獲オリの種類を増やし、スピーディな対応を図る工夫が必要。			今後の改革改善案	移動や運搬が容易な檻の購入。			課題とその解決策	地域の協力、わな免許の取得者を増やす。【分割H26から】囲いわな・捕獲おり貸し出し事業有害鳥獣情報収集・管理事業の一部			